

理不尽だらけのサラリーマン

生活を送っているあなたへ。

死ぬほどつまらない人生

をもう終わりにしませんか？

こんにちは、池谷です。

ここでは余計な話は抜きにして、マジな話をしましょう。

サラリーマンのあなたはこれを読んでいる今日も、これから出勤か、または、職場から帰宅している途中かもしれません。

そして、今日も家に帰ったら、冷蔵庫からスーパードライを取り出して、栓を抜き、youtubeか、テレビをダラダラ観ながら、スーパードライを飲む。

あなたはその生活を一体あと何十年続けるつもりですか？

つまり、私がここで言いたいことは、1つだけです。

自分に嘘をつくのは もう辞めろ

あなたもサラリーマンとして数年間、働いた身ならば、すでにわかっていると思います。企業は、あなたに対して、「人間性」とか「オリジナリティー」、「個性」なんて、全く求めていないということを。

私たちは、女王蜂に仕える働き蜂でしかないのです。

では、
彼らが、私たちに求めていることは何でしょうか？

彼らが私たちに求めていること、それは、

「真面目」

「勤勉」

「従順」

「低賃金」

「大きな成果」

これだけです。

だから、

出世することなんて簡単なんですよ。

ただひたすらに、「真面目」かつ「勤勉」に、上司や会社の言うことに、なんの感情を持たずに従い「従順」、もらえる給料が少なかるうが「低賃金」、「大きな結果」出すために自我を殺して働く。

サラリーマンとして生きるということは、まさに働き蜂のような人生送ることなのです。

でも、過去を思い返してみれば、
私たちは小学校からずっと同じように「真面目」「勤勉」「従順」「大きな成果」を学校から、そして親から求められてきました。

他人の要求に、応えるための努力をする。

これが当たり前の世界にいたので、
大学を卒業して、社会人になったところで、今更疑問なんて感じなかったと思います。

でも、

心のどこかでは、**絶望**しているのではないのでしょうか？

同じ通勤経路、同じ色のスーツ、
同じような仕事、同じデスク、同じエレベーター、同じことしか言わない上司。

そして、**同じような毎日**。

おそらく普通に40代、50代までサラリーマンをやっている人間は、
「同じような毎日」の繰り返しによって、どこかの神経が麻痺し、生きていることに
無感覚になり、約40年間仕事をして、退職するのだと思います。

しかし、
20代のあなたは、その恐ろしくつまらない時間を
あと40年も過ごさなければいけないのです。

それって、ほぼ狂気だと思いませんか？

人生が死ぬほどつまらない

私も大学を卒業し、サラリーマンとして働き始めて、3ヶ月目くらいで、
圧倒的な質を伴って感じました。

とは言っても、
なぜか自分の未来に「希望」を感じているのが20代だと思います。

「希望」を感じているからこそ、
Amazonでビジネス書や投資、Fxの本を買って、仕事終わりにスタバや近くのカフェに寄り、
ブレンドコーヒーを注文し、席に着き、Amazonで買った本を開いて勉強をしてみたりしてい

るのではないでしょう。

一つだけ、あなたに質問させてください。

サラリーマンになってから、何か大きな変化はありましたでしょうか？

ない（苦笑）

そう。

それがあなたの「現実」です。

毎日毎日朝早く起きて入社し、ストレスを溜めながら仕事をしたあとに、カフェで勉強もしているのに、なぜ何も変化がないんだと思いますか？

ぶっちゃけ、

あなたは何もしていないからです

（苦笑）

正直なところ、あなただけってサラリーマン生活が死ぬほどつまらないことなんて、初めから気がついていましたよね。

だからこそ、

Amazonでビジネス書を買ったり、投資の勉強をしていたのだと思います。

でも、

結局、何もなかった。

ビジネス書は読んだだけだし、投資の勉強は日々の忙しさにかまけて2週間で終了。

FXはリスクの大きさにビビって「自分では無理だ」と諦める。

今のところは、それでもいいかもしれません。

中学、高校、大学の友人たちが一緒に飲んでくれるし、昔話や過去の栄光に浸って、なんとか毎日のつまらなさを紛らわせるかもしれない。

しかし、

「現実」を直視してください

職場に40代、50代の上司がいると思います。

「おれはこんな風にはならないだろう」そんなおぼろげな希望を心の中に持っているかもしれません。

残念ながら、それがあなたの未来の姿です。

あなたも間違いなく、同じような人間になるでしょう。

なぜなら、

あなたの上司も、あなたと同じように、同じ通勤経路、同じ色のスーツ、同じような仕事、同じデスク、同じエレベーター、同じことしか言わない上司。

そして、**同じような毎日。**

を過ごしてきたからです。

同じ順序を踏めば、同じような物が出来上がる。

毎日コンビニで買い物をしているあなたなら、それは十分理解している事実ではないでしょうか。

私も新卒で、とある従業員500人程度の中小企業に勤めていました。

大学卒だったので、フツーに事務職になるんだろうなあなんて思ってしまったが、なんと配属されたのは、工場の現場。

その現場の仕事は夜勤もある体力勝負の職場で、

しかも、

「昇給がほとんどない」

「夏休みがない」「通勤手当が出ない」

「上司との行きたくもない飲み会に行かないといけない」

「上司にこびを売りまくらないと昇進できない」

「お酒をたくさん飲める奴が昇進する」

「サービス残業するのも当然で、1日平均12時間は働く」
マジでそんな職場でした（苦笑）

しかし、
上司は人柄が良い人間が多く、会社の飲み会となると、
よく悩みを相談に行っていました。

そこで上司がよく言っていたフレーズがあります。

「とりあえず働けているからいっか」
「世間にはもっと辛い思いをしている人がいる」
「自分はまだマシ」

ああ、これが末路か・・・
私は直感的にそう思いました。

そんなのは、

自分に嘘をつき続けた人間が発する言葉なんですよ。

まだこの社会では、我慢とか忍耐とかサービス残業をしてこそ出世するのが
常識とされていますが、正直、常識とかどうでもいいんです。

それらは常に変化していく物なので。

今までの常識では、
上司にいかに従順で、真面目で、残業もいくらでもするし、
必要とあらば、徹夜までする。

会社に人生をかけて尽くすのが当たり前でしたし、

そんな人間が出世していました。
もしかしたら、あなたの会社では今でもそんな雰囲気があるかもしれませんね。

では、
そんな環境の中でも、毎日頑張っているあなたに、
もう一つ質問をさせてください。

あなたは、

忙しいのが 好きなんですか？

昔は「ブラック企業」とか「社畜」って言葉は存在しませんでした。
なぜなら、そういう働き方、生き方が当たり前だったから。

しかし、
バブル崩壊後の急激な景気の変動によって、
企業はコストの削減のために非正規雇用者を増やし、能力主義を導入しました。

その結果、現代では、すでに年功上列の運命共同体的な、企業社会はほぼなくなりました。
今更、終身雇用とか、年金なんて期待していませんよね？

日本は今後、確実にアメリカのような実力主義が台頭していきます。
その社会を表現するならば、「圧倒的格差社会」

力を持つ強き者が多くを独占し、弱き者が搾取され続ける社会です。

まだ多くの人が気がついていない事実かもしれませんが、
「圧倒的格差社会」はすでに近づきつつあり、それに対して準備している人間と、
未だに何もせずに、ぼんやり生きている人間の間で、差は大きくなっているのです。

正直、毎日、企業の歯車＝サラリーマン（組織の一部）として、目の前の仕事をしているだけでは、「準備不足」だと思ってください。

すでに「個」という生き方に強いスポットライトが当てられる時代になったのです。

自分はどうしたいのか。

力をつけ、強き者になりたいのか？

弱き者のままでいいのか？

自分で生き方を選べる時代になってきています。

いろんなメディアで言われてるのですが、もうだらだらとサラリーマンの漫然とした日々を
生きている人は淘汰の対象となってきているのです。

つまり、

「サラリーマンとしての生き方」という視点ではなく、

「個人としての生き方」という視点で人生を捉える必要があるということです。

だから、

**もっと自分に正直になっても
いいんじゃないですか？**

どうですか？

本音を聞かせてください。

今の人生は楽しいですか？

私の場合は、

サラリーマンとしての人生は、 死ぬほどつまらない。

と確信しています。

会いたくもない人間たちとなぜか一緒の建物に閉じ込められて、自分のこれからの進退は、全く気が合わない上司に決められ、いくら働いても月収26万円くらい。

誰かに不満を言えば、その不満がなぜか上司に伝わっていて、2者面談がいきなり始まる。「おはようございます」と言っても、機嫌が悪いのか挨拶を無視する女上司。

なぜかみんな会社に尽くすのが当たり前だと思っていて、それに付き合わされて無駄にサービス残業をしなければいけない。

用事があって会社の飲み会に行かなければ、謀反扱いされて、いつまでねちねち言ってくるかまってちゃん先輩。

有給を使えば、「いいな～俺なんか・・・」って不幸自慢を始める同期。

ぶっちゃけ、 もううんざりなんですよ。

一体何のために、こいつらと一緒に建物に閉じ込められて、さらに、一緒に仕事なんてしなければいけないのか。

誰かに相談したところで、返ってくる答えは、「それらも全部含めて給料なんだよ」。という、結局、理不尽を擁護するような返答。

お前ら、頭大丈夫か？

一つ質問させてください。

あなたがサラリーマンをする理由はなんですか？

あなたもたった20万円程度のお金のために働いているのであれば、いますぐに、その考えはゴミ箱に捨ててください。

もしあなたが理性だけで生きれるなら、社会の一部として十分に人生を楽しめるでしょう。「正しい選択」を続ければいいだけですから。

勉強して、真面目に働き、良き妻をめとり、マイホームを建て、子供を育て、貯蓄をし、それなりのトラブルを乗り越える。そんな普通の人生を生きれば良いと思います。

理性に従い、企業が打ち出すルールに則り、「サラリーマンをする理由」も適当に家族とか、大義とか、恩とか、そんな綺麗な言葉を並べて、繕えばいい。

人間は何も望まなければ、驚くほど質素に、無機質に生きることが出来ます。

全ての欲求を諦めてしまえば、苦しさも、辛さも、煩わしさからも解放され、

ロボットのように生きて行くことも出来ます。

私はただ、それを否定し、
自分の人生を選択しただけです。

俺の価値は俺が決める。

不遜でしかないかもしれないし、
自己中心的な生き方かもしれません。

でも、先ほど説明したように、これからは「個」の時代です。
こういう価値観の生き方がスタンダードになってくる時代なんです。

自分に対して正直になった人間は強いですよ。
なぜなら、そこに「意志」が生まれますから。

大事なものは、「意志」を持ち、そして「行動」することです。

私たちは「行動」の中でしか成長しないのは、あなたも重々承知ですよ。

そして、
「行動」にこそ可能性があると思いませんか？？

だからこそ、
私が提案したいのは、

可能性が拡大していく人生

です。

つまり、
そういう生き方の話です。

このままいつも通り、サラリーマン然とした生き方を続けていけば、可能性は限りなく少なく、多くの人は組織の歯車の一つとして、理不尽の中に埋没していく人生を歩みます。

あなたは「可能性が拡大していく人生」と、「理不尽の中に埋没していく人生」どちらを選びますか？

つーか、お前誰？

ここまで散々語ってきましたが、
「お前は誰なんだ？」と（苦笑）

簡単ではありますが、
ここで私の略歴を紹介したいと思います。

生年月日：1991年4月20日生まれ

職業：会社員

学歴：

その辺のどこにでもある公立中学を卒業

偏差値67台の公立高校を卒業

偏差値50台の私立大学を卒業

【略歴】

1。突然、アメリカ行くことに

思い返せば、私は小学校に入学以前、かなり母親にべったりな甘えん坊な少年でした。

朝、幼稚園に着くと、母親から離れたくないと、

泣き叫びまくっていたのが最古の思い出。

そうやって、ほぼ毎日幼稚園の先生を困らせており、
さらに「人見知り」が激しく、
幼稚園の先生と二人で記念撮影をするのが恥ずかったです（苦笑）

小学校に入学し、
ちょうど小学2年生になろうとしたころ、
父親の仕事の関係でアメリカのボストンに強制的に渡米しました。

アメリカでは、
通学のスクールバスで、なんか意地悪なことされ（具体的には忘れましたが・・・）
その時、7歳ながらも、「人種差別」という言葉を身に染みしました。

「お前、会ったばっかに人間によくそんなことできるな！??」と。

しかし、幸いなことに、
私が日本の小学校で受けていた算数の学習が、アメリカの算数よりもかなり進度が早かったんです。

算数の授業で、
問題のプリントを誰よりも早く解いて、先生にドヤ顔で持っていったところ、

その実力が認められ、いじめに合わなくなった
のです。

その時、7歳ながらも **「実力主義」** という言葉が身に染みしました（苦笑）

「人種差別」「とても距離感が近いコミュニケーション」「実力主義」

そんなアメリカのザラザラした空気の中で生活したことで、

「人見知り」とか「恥ずかしい（気弱な面）」 とか、どうでもいい。

と思うようになりました。

結局、アメリカで生活したのは、約1年。
ようやく英語も聞き取れてきて、そこそこコミュニケーションを取れるようになるところで、日本に帰国しました。

とても中途半端な時期に帰国した池谷少年は「スーパーアメリカかぶれ」となり、

このあと、日本の大地を揺るがす騒動を起こすのだった・・・

2。アメリカから日本へ帰国

帰国後、
アメリカに転校する前に通っていた同じ小学校に再入学しました。

スーパーアメリカかぶれとなっていた池谷少年には、
「恥ずかしい」という概念が消滅していたため、
授業中でも手を上げてトイレに行くことを宣言し、トイレに行くようになりました。

しかし、
なぜかトイレから帰ってくると、
その勇敢さに先生とクラスのみんなからの拍手。

私にはそれが衝撃でした。

「え・・・なんで??？」

その反応に困り、アメリカかぶれ池谷は泣くしかありませんでした。

アメリカではみんな手を上げて余裕でトイレに行っていたので、
その常識の違いに驚いたのです。

また私は一見、賞賛とも取れるこの拍手によって、
一瞬にして“あること”を学び取ったのです。

「出すぎた釘は叩かれる」

「個」として生きることではなく、「組織の一員」として生きること。「組織のための授業」を乱さないように、「個」はひっそりと誰にもバレないようにトイレに行かなければいけない。

そこから私は手を上げてトイレに行くことはありませんでした。

.....

アメリカから帰ってきた頃くらいから、
最もよく遊ぶ人間は2歳年上の母親方のいとこ（男）でした。

小学校4年生のころ、いところに初めて「エアガン」というものを見せてもらいました。
当初は、葉っぱとか空き缶を打って遊んでいたのですが、私たちはそのうちさらに刺激を求め、二人でサバゲーを始めたのです。

森の中を駆け回り、お互いをエアガンで撃ち合っていました。

このサバゲーに最高にハマったんですよ。
すげー「スーパーアメリカかぶれ」の血が騒いだんですよ（笑）

アメリカでもムキムキの海兵隊たちが、実際にランニングとかしてたのをよく見ていたし、
テレビでもよく戦争映画が放送されていました。

ハマりにハマった私は、
当時すでに小学校でパソコンの授業でインターネットの検索エンジンの使い方を学んでいたため、
Yahoo!でアメリカの特殊部隊について調べまくっていました。

もしあのままアメリカにいたら、本当に海兵隊になっていたかもしれません（苦笑）

3。「スーパーアメリカかぶれ（中二病）」

中学生のちょこっと輝いてた日々

中学生になっても変わらず、サバゲーが好きでしたし、
将来の夢はアメリカの特殊部隊であるネイビーシールズでした（苦笑）
（中学生になってもまだ「スーパーアメリカかぶれ」でした・・・）

「TSUTAYA」で何本もDVDを借りてきて、よくある戦争ムービーを見まくる日々。

世界最強であるネイビーシールズになるためには、
体力はもちろん、頭脳も明晰でないといけないと思い、自ら「駅伝部」に志願し（志願という言葉が好きでした 笑）、
塾にも通って、英語に特に力を入れつつ勉強を頑張っていました。

小学校低学年のころは母親を困らせるほど、勉強が嫌いでしたが、
小学校高学年くらいから自然と「塾に通いたい」と自ら志願するほど、勉強が嫌いではなくなっていたんですね。

勉強が嫌いではなくなっていたというか、
「ネイビーシールズになりたい」という目標があったから、
驚くほど自然と勉強に立ち向かえたのです。

だから学校の定期テストでも、大体10位以内にいました。

でもって、
英語は常に100点を目指していました。

そんな中、中学生だった私はあることに気がつきました。

それは、

**なぜか、みんな平均点以上
を目指している**

ということです。

その学年の平均点以上をテストで取れていれば安心し、

平均点以下なら絶望していたのです。

やはり、
ここでも彼らの考え方は

「自分がいかに組織から外れていないか？」

ということでした。

自分自身（＝個人）としての目標や夢を持ち、そこから自分の到達したいレベルを決めて、そこに向かう努力をするのは普通だと思っていました。

でも、「多くの人」はそうじゃない。

「多くの人」の考えの中心にあるのは、いつも自分自身（＝個人）ではなく、組織の一員として生きること。

その時は、まあ自分は自分の道を行けばいいし、他人なんてどうでもいいやと、それを気にかけることはありませんでした。

もう本気で世界最強のネイビーシールズを目指していたので、困難に屈しない心を養うために、トイレ掃除、生徒会長、学級委員長などなど、人のやりたがらないことをしまくりました（笑）

それによって、ますますヒートアップする世界最強へのロード（笑）

4. 「スーパーアメリカかぶれ（調子に乗った）」

高校生の絶望の日々

私は本気で、世界最強となるために、中学で勉強をしていたため、県内では有名な進学校に入学することができました。

それにより、

「おれすごいじゃね？」っていう慢心に、完全に心を支配されていました・・・

その結果、テストで221/316位という結果を招き、スーパーアメリカかぶれにより、小学2年生からずーっと伸び続けていた鼻をへし折られました。

それからは勉強第一と考えて、ひたすらに勉強に没頭しました。

「順位」を上げるために、いろいろ策を講じたつもりでしたが、結局はくだらないプライドがまだあり、中途半端だったため、全て失敗に終わりました。

これが私にとって

人生のターニングポイント

でした。

失敗の連続によって、もはや世界最強とか、ネイビーシールズになるという夢は、その時すでに、どうでもよくなっていました。

高校のテストごときで、挫折している自分が世界最強になんてなれるはずがない。大きな敗北感に包まれ、暗中模索しているときに、ふと、あることに気がつきました。

それは、

こうやって、

平凡なサラリーマンは作られていく

んだなと、なんとなくそこで確信があったのを、今でも覚えています。

プライドがへし折られ、自分も他の人間と変わらないというある種の諦めが人生を支配した時、人間はただのサラリーマンになるしかないのかもしれない。

私も「多くの人」と同じように「平均点」や「順位」を気にし、「個」として生きることではなく、「組織の一員」として生きることが、だんだんと当たり前となっていきました。

「組織の一員として生きること」

このターニングポイントを迎えながらも、

「このまま高校を終わりたいくないな」って気持ちが強くなって、
高校1年生の冬から独学でブレイクダンスを始めました。

塾から帰ってきて夜な夜なDVDやyoutubeを見て、
一人ブレイクダンスを特訓する日々が約1年半続きました。

その間、昼休みには友達を体育館に招いてダンスを見せ、評価をもらったり、
youtubeにアップロードされてあるプロの動画を見せて、
「どの人のダンスが一番好きか？」ということを質問しました。

そして、友達からの評価が一番高かったプロのダンサーの技をひたすらコピーしたのです。

なぜなら、
その技を披露すればウケると思ったから。

最終的に、高校3年の最後の文化祭でブレイクダンスを発表し、
多くの人の度肝を抜くことができました。

「池谷くんそんなことできたの！！」という女子の声嬉しかったです（笑）

そんな将来性のない物のために、
「なぜ高校の大事な3年間を投げ打ってしまったのか？」

私の親はきっとそう思ったでしょう。

でも、
この高校時代にブレイクダンスをほぼ独学で学び、成功した。
というこの体験が現在の私を形作っています。

私はこの成功体験から、とても重要なことを学んだのです。

それは、

希望は自分で取りに行く

必要がある、ということです。

文化祭終了後、
私はダンスをやめ、完全に受験戦争モードとなりました。
ブレイクダンスを始めた時から、そう決めていたのです。

しかし、

...

というか、やはり、状況は一向に改善しませんでした。
私は「がむしゃら」という言葉を履き違え、
夏休みは毎日3時間睡眠で勉強をしましたが、そもそも眠くて頭に何も知識が入っていなかった
ので、効果なし。

高校3年の9月の模試で、全くその成果が出ず、
勉強に対しての情熱を全て失い、躁鬱状態となりました。

最終的に定期テストでは、316/316（最下位）を取りました（苦笑）

最下位をとってからは、高校卒業まで授業には出ましたが、
全くやる気が起きず、家に帰ってはひたすらにレディオヘッドのkid aを聴いて過ごしました。

受験はテキトーに受かるところを受け、
その結果、私立大学に受かったので、そこに行くことにしたのです。

もう完全に人生にやる気ゼロでした。

5. 「平均点」を目指していた大学生活

大学1、2年はひたすらに躁鬱状態が続き、できれば家から出たくありませんでした。単位を落とさないようになんとか授業に出る程度。

家ではまだレディオヘッドを聴いて過ごしていました。ようやく少し前向きになり始めた時に、あることを真剣に考え始めました。

それは、
「受験に失敗した私は今後どうなるのか？」
ということです。

実は、私はこの「受験の失敗」から、とても多くのことを学びました。あえて一つシェアすると、

「勉強を頑張らなかった奴は、あらゆる可能性を失ってしまう」

ということです。

偏差値50くらいの無名の大学に行った人と、有名大学（いわゆる早稲田大学、慶應義塾大学、京大、東大など）に進学した人では、もうその時点で人生の可能性に大きな差がついているのです。

有名大学には有名な教授や有名な専門家が講師を務めていたり、学生の中にもユニークな才能を持っている人間もいます。有名大学に進学できれば、彼らに会うことができます。

「人生は出会いで変わる」

という人がいるように、優秀な人たちと出会うことができ、チャンスに満ち溢れた環境に4年間も在籍できます。

そして、在籍した後も有名企業に勤められる可能性さえあるのです。

しかし、
偏差値50くらいの無名の大学はどうでしょう。

有名大学もと学費はほぼ一緒なのにもかかわらず、有名大学のようなチャンスはほとんどなく、
得られるのは「学士（=大学卒業）」という肩書きだけ。

そんなの今や誰でも持っているので、あんまり意味ないですよ（苦笑）

待っているのは、ブラック企業が、 安月給で人生を売るような仕事

なのです。

大学3年の冬。

就職活動が始まりました。私はマイナビ、リクナビに登録し、「多くの人」と同じように就職活動をしました。当然、有名企業にエントリーシートを送ってみても受かるはずがなく、誰も知らないような中小企業を受け、内定を取りました。

その頃の口癖は

「人生こんなもんか」

「自分よりも辛い人がもっといる」

「自分はまだマシ」

でした。

これらの口癖からも分かりますが、
私は人生を流されるように生きてきていたのです。
他人と人生を比較し、自分を慰めていたのです。

つまり、私は知らず知らずのうちに、中学生のときに違和感を感じていた

「テストの平均点」を 狂気と言えるほど気にする人生

を歩んでいたのです。

私も「多くの人」の一部となっていました。

「自分がいかに組織から外れていないか？」
このこと異常に気にして生きることが、いつの間にか「当たり前」になっていたのです。

6. 「絶望」の発見

私が入社したのはとある食品会社でした。「大卒だから、この会社で事務なんかをやるんだろ
うな」と考えていました。

まずは研修からと、現場に配属され高卒の先輩方と一緒に食品を生産する仕事をしていました。

「多分半年くらい現場で研修をした後、営業とかをやるんだろ
うな」と考えながら、半年が経ちました。一向に部署移動の通知は来ません。

1年後、相変わらず現場で食品を作っていました。

毎日毎日同じような作業の繰り返しで、それはそれは退屈だったのです。

さすがにそんなこと1年間も現場なんてやりたくなかったし、
大卒なんだから営業や商品開発とかの仕事をさせてくれよと思っていました。

人事に「営業」や「商品開発」をやりたいという旨を伝えても、
「今は人が詰まっちゃっているんだよ〜」と、願いは叶いませんでした。

「ただの大卒になんて、 ほとんど価値がない」

このことを身にしみて実感しました。

なんの目標もなく、ただただ「平均点を取ればいいや」というような惰性で大学生活を終えてしまった人間には、とても小さな可能性しかありません。

ただただ上司の、会社の、決定に従うしかないのです。

自分でやりたいことも決められず、住む場所も決められず、稼ぎたい額も決められず、言いたいことも言えず、休みたい日も決められず、一緒に仕事をしたい人も決められない。

それが

「組織の一部」として生きる人生

であり、

理不尽をしこたま飲まされる

のが当たり前の世界です。

「平均点」をとって満足する人生を歩んだ結果がこれなのです。

私は心からこの圧倒的な事実と毎日に「絶望」しました。

こんな希望も何もない毎日がズーッと続くことを想像すると、体に力が入りませんでした。

おそらく、

今考えてみると他の部署に配属されたとしても、この絶望感は変わらなかったでしょう。

なぜなら、

一般的なサラリーマン生活を送る限り、「組織の一部」であり「平均点」をとって満足する人生には変わらないからです。

7. 「希望」の発見

ある日、仕事の休憩中、自販機で買ったBOSSレインボーマウンテンの飲みながら、たまたまiPhoneでfacebookを見ていました。

有名大学に行き、有名企業へ、エスカレーターに乗ったかのように就職をした高校の友人たちの、素晴らしく輝かしい日々についての投稿が一段とムカつきました。

そして、つらかった。

だから、リア充共の投稿は無視して、タイムラインでひととき異彩を放っていた「文字だけの長い文章の投稿」を読んだのです。

思い返してみると、その「文字だけの長い文章の投稿」は大学生の頃からありました。

「平均点」をとって満足していた大学生の私は、文章を読むよりも友人たちがアップする写真の投稿を見て、facebookを楽しんでいたため、一見なんの面白みもない「文字だけの長い文章の投稿」をずっと無視していたのです。

でも、なぜかその日だけは「文字だけの長い文章の投稿」が気になりました。

で、読んだみた結果、

灰色に見えていた世界

に、iPhoneの画面部分だけ色彩が宿ったのです。

つまり、その文章がとても面白かったのです。そこには哲学、地政学、投資、マーケティング、ビジネス、心理学の知識がふんだんに散りばめられていて、読むだけでもためになる文章でした。

その日は定時でさっさと帰り、ひたすら「文字だけの長い文章の投稿」を読みました。タイムラインを遡って、過去の投稿も全部読んだのです。

その投稿の主は、
大学時代に、大学の学内で行われている英会話の講座で一緒になった30代の大学OBの起業家でした。

その英会話は学外の人でも受講できるシステムで、
近所のおばさんも受講していました。

その中に、「文字だけの長い文章の投稿」をする30代の大学OBの起業家が出て、
偶然、友達申請をしていたのです。

人生は出会いで変わる

この言葉が骨の髄まで染み込みました。

私はその日に起業家に対して、ダイレクトメッセージを送り、たくさん質問させていただきました。

そして、彼は私にネットビジネスの世界を教えてくれたのです。

・ネットビジネスの世界は、よく分からない上下関係や、社歴とか、役職とか、こびを売る必要も、愛想笑いをする必要もなく、本当の強者だけが生き残る、完全に「個人」の力が試される実力社会。

・社会人になってから勉強を始め、仕組みを作り上げることができた人は月収100~200万円を稼ぐのは当たり前で、無論サラリーマンを辞めていて、いつでも好きな時に海外旅行へ行き、家から出るところか毎日15時間以上寝ていても、年間1億円も稼ぐ人もいる。

・輝かしい学歴、性別、年齢、運動神経とか、月70時間を超える残業時間とか、コネとか、そんなことは一切関係なく、凡人であろうとも一步一步地道に鍛えた知能さえあれば、無限にビジネスアイデアを思いつくことができ、成功できる世界。

それを聞いて、
私は高校時代のほぼ全てをかけたブレイクダンスを思い出し、

もう一度、情熱の中で生きたい。

と思いました。

そして、ブレイクダンスから学んだ、ある大切なことを思い出しました。

「希望」は自分で取りに行く

必要がある、ということ。

自分で目標を作り出し、努力のすえ、達成するからこそ「希望」が生まれるのです。

言ってしまうと、

全ては「自分勝手」です。

自分で勝手に目標を掲げて、勝手に努力して、
勝手に達成して、勝手に希望を感じる。

一見、自己中心的に見えるかもしれませんが、

でも、それが、「個」として生きることであり、

自分の人生を生きる

ということなのです。

私はその日から、そして今でもネットビジネスを行っています。

成功2割、失敗8割でこれまで何度も、何度も失敗し、その度に「あ〜キツいな〜」と思います。
明らかに、つらいことの方が多いです（苦笑）

これを書いている現在はサラリーマンなので、日中はサラリーマンとして仕事をし、
夜はネットビジネスという、ハードな日々を送っています。

一週間に一本もビールを飲まない時もありますし、
休日はどこにも出かけず部屋でパソコンをやっている時もありますし、
時間がない時は旧友からの誘いも断ります。

どっからどう見てもリア充ではない（苦笑）

でもね。

死んでもネットビジネスを始める前の、
サラリーマン然とした生き方には戻りたくないんですよ。

だって、楽しいから。

このハードな日々の先には、必ず大きな希望=可能性がある。
そう確信していますし、事実としてあるから。

一度絶望したことがある身として、
あなたと同じように「平均点」を取って満足していた人生を送っていた身として、

そして、

あなたと同じサラリーマンである身として、
私は私の「略歴」を以下の一言で締めたいと思います。

お前もこっちへ来いよ

来る方は、メルマガに是非登録しておいてください。

メールマガジンに登録する。

さて。

長々と続けてきましたが、
ここからは再び「メッセージ」です。

現実問題。 サラリーマンとしての未来は、 決して明るくない。

暗い話ですが、
これからの時代、加速度的に凄まじい速さでグローバル化が進みます。
200年もの間、鎖国を続けていた日本も物、人間の流動性が高くなり、あなたの地元、そして
会社にも白人、黒人、アジア系の外国人が少なからず目立つようになるでしょう。

昔から言われていることですが、私たちサラリーマンはただの労働力です。
資本主義社会にとって、私たちは人間ではなく、ただの労働力という定義で扱われます。
だから、
企業は私たちが人間らしい個人としてオリジナリティーを発揮したり、個性を発揮してほしいなん
て、これっぽっちも考えていませんよ。
**ただただ、労働力として、「低賃金」で「文句も言わず」、「大きな利潤」を生み出してくれさえ
すればいいわけです。**

で、
グローバル化が進んだ社会において私たちサラリーマンは、優秀かつ安価な外国人と比較されます。
圧倒的に、「低賃金」、「文句も言わない」、「大きな利潤を生み出す」そんな存在と直接対決
を確実に迫られます。

とは言っても、まだ人間対人間の戦いです。言葉の壁とか、日本人特有の高い精神性が評価されて、
勝機はあるかもしれません。

ですが、忘れないでください。

今後私たちの仕事を本当の意味で奪っていくのは、「外国人」ではありません。

恐ろしいほど優秀なAIを搭載したロボットです。

ロボットはインターネット上の情報をまとめ上げ、自分の知識とし、現実目撃で起こった結果から得られるビッグデータを解析することで、最も的確な判断ができます。

さらにロボットは一度買ってしまえば、**給料を払い続ける必要もない。風邪もひかない。有給もいらない。ゴールデンウィークもいらない。年末年始もいらない。それでも、文句は絶対に言わない。**一度学んだことは忘れない。ビッグデータを処理できる。最も的確な判断ができる。その結果、大きな利潤を生み出してくれる。

あなたが経営者なら、そんなロボットと人間どちらを採用しますか？

残念ですが、どんな職業についていようと、

これからの時代、絶対安心ってことはありません。

受験勉強を頑張って有名大学に行ったあなた、就活を頑張って有名大企業にお勤めされているあなた、であろうともです。

ここに書いてあることは、

すべてあなたのことです。

「俺には関係ない」

なんて中学二年生のようなことを言わないほうがいいですよ（苦笑）

あなたは、

中国語、フランス語、英語が話せて、

外国の大学院でMBAを取得している非常に優秀なビジネスマンに、

勝てますか？

そして、今後10～30年間で迫りくる恐ろしく優秀なAIロボットに勝つことはできますか？

無理ですよ（苦笑）

まずはその事実を認めましょう。

認めた上で、これから何をすべきなのかを考える。私たちがすべきことはそれです。

絶望は全ての始まり

私たち凡人にとって、すべての始まりは絶望です。

絶望から思考が始まり、その思考から行動が生まれます。

私が高校のテストの点数によって絶望し、ブレイクダンスを始めたように、

あなたにとっても絶望は人生のターニングポイントとなるでしょう。

そして、

あなたは今少なからず、自分の未来に対して、絶望しているはずです。

絶望感を感じていないならば、

これ以降に書いてあることは、あなたにとって無意味な情報なので、時間を無駄にしないためにも、このページを閉じてしまってください。

このまま毎日毎日死ぬほどつまらないサラリーマン生活を送って、とりあえず、30歳前半には結婚して、子供を授かり、育て、ひたすら学費を支払い、定年になって退職する。

そんな、**全くもって現実が見えていないシミュレーションをしていたあなたは、着々と迫ってきている試練を乗り越える準備をしなければいけないのです。**

正直、私が提案する「可能性が拡大していく人生」は、

そう簡単に手に入るものではありません。

「誰でもなれる」「誰でも出来る」という類いのものではないのです。

でも、だからこそ、

やる価値があると思いませんか？

なぜなら、

「希望」は自分で取りに行く

ってことをしない限り、手に入れることができないからです。

この絶望しかない世界において、

希望が自らあなたの元に舞い降りることは万が一でもありません。

さて。ここまでに何度も「希望（＝可能性）」というなんとも“ふんわり”とした言葉を書かせていただきましたが、

サラリーマンの誰もが知っている、「この世の掟」を確認しておきたいと思います。

それは、

この世界で 金を稼げない奴は無力だ

ということ。

説明不要の事実だと思います。

自分に未来を切り開いていくための力（＝お金を稼ぐための力）がない限り、永遠にそのステージからは抜けられないのです。

こちらマジなので、

もっと具体的に書きましょう。

**自分自身で稼げるようにならないと、一生サラリーマンとして、生きる
ことになり、理不尽をしこたま飲まされる人生からも、そして未来に待
ち受ける絶望からも、抜け出すことはできないのです。**

だから、

私が提案する「可能性が拡大していく人生」を手に入れるためには、

「自分一人で稼ぐための力」を手に入れないことには始まりません。

たぶん、

生まれて初めて、必死になる

と思います。

今までずっと社会が敷いたレールの上にはいた人は、サラリーマンという枠から外れ、自分自身で稼ごうと考えた瞬間に、何者でもなくなるわけですから。

自分のアイデンティティ(存在意義)も居場所も失うのですから、そりゃ、必死です。

で、吹っ切れるわけです。

俺なら絶対やれる。

って。

今まで他人を驚かせるような特別なスキルもないからこそ、そんな今の自分にムカつくからこそ、お金を稼ぐための会社に依存するしかないマイナスな存在だからこそ。

どうにか今の自分を超越する存在となり、「何か」を自分の人生にぶつけてやりませんか？

凡人サラリーマンである私たちがすべきことは、明らかです。

現時点の自分は圧倒的に「無力」な存在であることを認め、多少なりとも「有力」な存在になるための努力を始めること。

「この世の掟」に則り、

多少なりとも「有力」になるために、私たちは「自分自身で稼ぐための力」を身につける必要があります。

その「力」を得ることで初めて、自分で自分の人生の舵取りができるようになる。

まずは、「稼げる自分」になってください。

今のあなたでは、会社に依存し、住む場所、すべきこと、就寝時間、起床時間、身につける衣服、ヘアスタイル、思想、哲学、スキル、月収、そして未来までもが、赤の他人である「上司」によって決定されてしまいます。

なぜこんな絶望的な人生になってしまっているのか、わかりますか？

答えは明白です。

「自分自身で稼ぐための力」がないから。

あなたの本気は そんなもんですか？

多くの人は、「本気でやるべきもの」と「本気の出し方」を知りません。

しかし、ここまで読んでくれたあなたはすでに「本気でやるべきもの」はわかっていますよね。

それは、

「自分自身で稼ぐための力」を身につけること。

そのために、

「勉強」をしてください。

このブログ内にも「自分自身で稼ぐための力」を身につけるために有益情報が、数多く含まれています。

ここで勉強するのもいいでしょう。

しかし、

より濃い情報を発信しているのはメルマガです。

私がメルマガで提供するのは、

「自分自身で稼ぐための力」を身につける方法だけではありません。

「自分自身で稼ぐための力」を身につけた状態に

到達するまでのプロセスにおいて、必要な情報を手渡していきます。

つまり、正しい「本気の出し方」をお教えします。

私がメルマガで具体的にお話しすることは、

・ 毎日4時間の残業から確実に解放され、今までの10分の1の労働時間で結果を出すための 外資系コンサルティング企業のエグゼクティブクラスも使っている時間管理術

・ 世界各国の景気や国の施策によって大きな影響を受けるFXや株投資をする必要が全くなく、ネットのブームがどうなろうと 自分の力で安定的に稼ぎ続けるために “本当に”必要なことは何なのか・・・

・ 若干 17歳の少年がたった一人で約300人の観客を圧倒したのストリートダンスから学ぶ、 王道かつ普遍的な成功法則と、自分のパフォーマンスを圧倒的に向上させる肉体改造設計術

これらをお教えします。

私がお教えしたすべての事柄をあなた自身の生活習慣、マインドセットに落とし込むことができたとき、無力だったからこそ強制されていたサラリーマンという、

理不尽をしこたま飲まされる

のが当たり前の世界から、堂々と出ていくことができるでしょう。

それは、つまり、
どういうことかということ、

・ 毎朝6時頃、目覚ましの不快な音によって目覚め、 今日一日の間ほぼ確実にさらされるストレスと“不公平”に絶望しつつ、歯を磨き、髭を剃り、顔を洗い、スーツを着込み、乗りたくもない 満員電車で、確実に間に合うように家を出なくてもいい。

・1mmも関わりたいと望んでいない人間と、同じ建物の同じ部屋に閉じ込められ、“おはようございます”という人間として当たり前の挨拶すら、その日の気分が無視をするプライドだけが高い上司の機嫌を取らなくていい。

・日曜日。息抜きをしようと大学時代の友人や、恋人と買い物に出かけ、コーヒーを飲んで落ち着いている時に、ふと、「明日、職場で仕事をしているイメージ」が脳裏をよぎり、明日から再び仕事に行かなければいけない絶望感に打ちひしがれることがなくなる

・他人を馬鹿にするスキルと、他人のプライベートを詮索するスキルが異常に長けた、尊敬に値しない先輩社員に対して、引きつった笑顔を作り、愛想笑いとお世辞も言う必要がなくなるばかりか、自分で自分が築き上げたい人間関係を構築できるようになる。

・“頑張っていますね”と、言って欲しげに毎日毎日、無駄に残業しているが故に、周りの社員も帰るに帰れないという、くだらない雰囲気を作り上げている“公害”でしかない先輩社員に自分も付き合ってしまう月のサービス残業時間が70時間を超える生活をしなくて済む。

・好きな時間に起きて、好きな時に仕事をし、好きな時に好きな期間だけ休みを取り、自分の行きたい国へ海外旅行へ行けて、夏にスーツを着る必要もなく、自分の好きな人間だけを集めて飲み会ができる。

そんな現段階では、夢のような生活をあなたは、まさに自分自身の力で手に入れることができるでしょう。

なぜなら、私の活動は、あなたの死ぬほどつまらないサラリーマン人生に、革命を起こし、「可能性が拡大していく人生」へとすることだからです。

その先に待っているのは、

未知の領域 into the wild

ここを目指してもらいます。

目指す過程で手に入れた、降りかかってくる問題を分析し、解決するための頭脳、集中してやり遂げるための肉体、前進し続けるためのマインドセット、そしてサラリーマンを辞めたことによって、手に入れた時間をどのように生かすかは、すべてあなた次第です。

あなたの未来は、会社や、あなたの上司や、私や、赤の他人が決めるものではありません。自分で決めるものですよね。

だから、

全て自分で決める。

ここまで読んでくれたあなたには、そんな生き方が似合っていると思います。

いや。

むしろ、最初から、あなたは求めていたのではないのでしょうか。

これまで機会に恵まれていなかっただけで、仕方なく死ぬほどつまらない人生を歩んできてしまった。そのまま、その道を進んでしまう人間も大勢いるでしょう。

それも一つの選択であり、生き方です。

だけど、
それだけが“唯一絶対の正解ではない”ことも確かです。

だからこそ、私はあなたに対して、

**共に自分自身を鍛え、「自分自身でお金を稼ぐための力」を身につけ、
未知の領域**

≡ into the wild

≡ 「可能性が拡大していく人生」

を目指していく生き方を提案します。

この生き方に興味を持ってくれた方、共に目指す方は、
ぜひメルマガに登録しておいてください。

では、
最後まで読んでくれてありがとうございました。

池谷

メルマガジンに登録する。

長々続いた、私のプロフィールもこれで終わりです。
最後に一言だけ言わせてください。

お前もこっちへ来い

メールマガジンに登録する。